

数字 で見る 経済

第16回 ベンチャーを起こした人は……

水元 雅巳(みずもと まさみ)

1975年生まれのみずがめ座。某大手都市銀行に入学後、「大阪経済の動向に深く関わっている中小企業の実態が知りたい」との思いを胸に大阪市都市経済調査会へ、「数字のことなら何でもお任せ」の頼れる男だが、実はギャンブラー。好きな言葉は、「臨機応変、出たところ勝負」。趣味は釣。

41.9歳 新規創業者の平均年齢

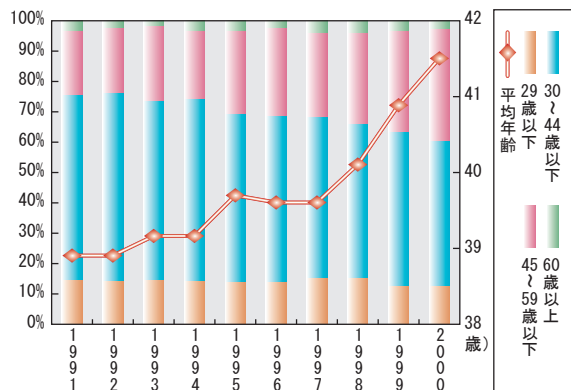
皆さんは「ベンチャー」というと、どういったイメージをお持ちでしょうか? なんとなく、「若い人たちがやっていること」というイメージではないでしょうか。2001年度「新規開業実態調査」によると、新規創業をした経営者の平均年齢は2000年時点で41.9歳。1991年の時点では創業者の平均年齢は38.9歳で、以後徐々に上がってきており、特に1997年以降、平均年齢は急激に上がっています。

世代別の構成を見ると、45～59歳の層が増えてきていて、この世代による起業の増加が、平均年齢の上昇をもたらしている大きな要因であることが分かります。

これは、ここ5年間で、企業のリストラが進んだ結果、中高年の人材が企業から離れ始めたことも大きく影響していると考えられます。この現象を、起業した人たちの立場から考えるとどうなるでしょうか? 起業時平均年齢の、41.9歳。この年代の人たちの多くは企業で経験を充分積み、地位もそれなりにあると考えられます。家庭も持っていることでしょう。つまり、従来の考え方によれば「守り」の姿勢に入っているにもかかわらず中高年層の起業が増えていると考えられます。

創業支援策を展開する際には、こういった中高年起業者の生活背景に対する十分な配慮も必要であると思われる。

起業者の年齢別構成と起業時の平均年齢



資料: 国民生活金融公庫総合研究所「新規開業実態調査」データを加工

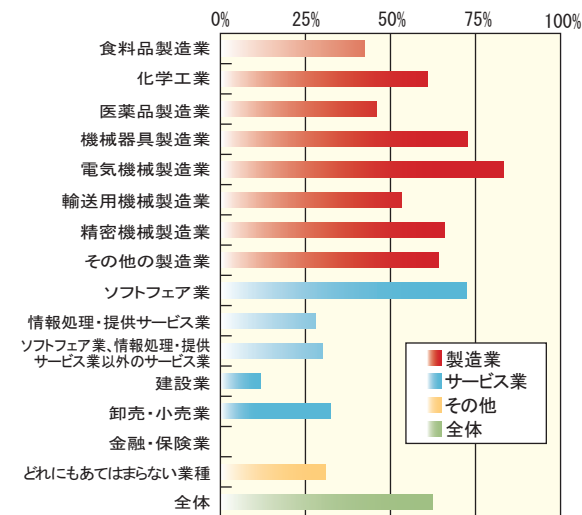
59.9% 前職と同じ業種での起業割合

起業(家)の実態について、科学技術庁が1999年に実施した調査に興味深い結果が出ています。この調査は、調査時点で設立

10年以内のバイオ・インターネット関連業と技術依存度の高い製造業を対象に、その創業者のプロフィールなどを質問したものです。そのなかで、起業者の前職と起業した業種の関連を調べたところ、全体の6割弱が、前の仕事と同じ業種で起業しているとの結果が出ています。特に製造業とソフトウェア業では、サービス業に比べて同じ業種での起業が多くなっています。

先ほど紹介した起業者年齢が上がっているというデータと、この調査の結果を合わせると、比較的キャリアを積んだ人が、自分が深く関わってきた業種で起業するパターンが多いのではないかと考えられます。今の社会では独立はまだまだ困難だと言えるでしょうが、上のような現状を見ると、同業種からの独立を暖かくサポートする社会環境作りや支援策について、さらに検討することが重要だと思われます。

起業者の所属していた業種と、起業していた業種の関係



出所: 科学技術庁 科学技術政策研究所「日本における技術系ベンチャー企業の経営実態と創業者に関する調査研究」のデータをもとにグラフ化